

高校二年

学年テーマ「国際理解・人権・平和」

山田 孝・斉 藤 真 子・鈴木 一 悠
川合 勇 治・仲 田 恵 子・加 藤 容 子
矢木 修・高 須 明

1. 学年テーマについて

(1) 学年テーマと全体テーマとの関連

全体テーマ「自分の人生を選択していく力を育てる教育課程の開発」という学年テーマ「国際理解・人権・平和」の関連からいうと、「自分の人生を選択する力」を幅広くとらえ、教科の学力も必要とするが、それと同時に「選択する力」の背景となる「社会を認識する力」を豊かにすることも必要であり、学年テーマを追求することにより生徒自身の社会認識の枠を広げることが可能であると考えられる。

現在の高校生の様子を、一言で言うならば、「自分の興味のあることには取り組むが、そうでないことには、関心をしめさない。」「いわゆる学力は高いが、社会的な関心が低く、ボランティアなどの社会に貢献する取り組みに積極的ではない。」という側面も見られる。しかし、一定の方向性が見えてくるならば、彼らの力を発揮させることができるのではないかと。それがまた「自分の人生を選択する力」に結びついてゆくことになる。したがって社会性を高めるためには、どれだけ社会を認識させるか、また、いまある社会をどれだけ身近に感じさせるかということが課題になってくる。また、この取り組みは、一つの教科の授業だけではできない、総合的な学習が必要となってくるのである。そしてこれが、総合人間科の取り組みである。

(2) 学年の目標

以上の点をふまえて、高校二年生としてはこの総合人間科の授業を通して、教科の学力だけではなく生徒自らが①調査研究する力＝社会に積極的・直接的に関わりを持つこと、②発表・討論する力、③まとめ・伝達する力＝社会性を高め、自ら発信する力を高めていくことを目標とする。

(3) 総合人間科の具体的な内容について

学年テーマである「国際理解・人権・平和」を、現代社会との関係でどう具体化していくかということであるが、高校二年生が11月に実施する「沖縄研究旅

行」を中心にして社会認識を深めていくことにした。なぜ「沖縄学習」が、学年テーマと密接な関係があるかと言えば、現在の沖縄が「国際理解・人権・平和」の問題を総合的に持っているからであり、また歴史的にみても沖縄戦という唯一の地上戦を経験した地域を学ぶことが平和学習でも特に重要であるからである。この「沖縄」を学習することは、生徒自身と社会との関係を認識させざるをえない地域でもある。実際に沖縄に研究旅行に行き、生徒らがフィールドワークを行なうわけであるから、今回の総合人間科の目標をより深めることが可能であると考えられる。

総合人間科実施にあたっては、まず「沖縄」を理解するためにひとりひとり学習を深めるために、教官のチームを作り授業を行なうことにした。

教官チームは

人権・産業	山田・加藤
国際理解・文化	仲田・斎藤・矢木
平和・環境	川合・鈴木・高須

として、一通りクラスをまわることにした。このあと、生徒の研究グループを組織して、研究の班テーマ・個人テーマを設定して各自の研究を行なうこととした。各教員も研究班のアドバイザーに入り研究をサポートする。

2. 一学期の学習計画

(1) オリエンテーションから

総合人間科 第一回（1995年4月15日実施）オリエンテーション資料から抜粋

1. 総合人間科とは

総合人間科とは、本校が文部省に研究開発学校に指定され、特別に設置された新しい教科です。この教科のなかで、私たちの「学ぶ」という力を高めていくことを目的としています。では、この総合人間科という教科のなかで何を「学ぶ」のでしょうか。

今日の日本の社会から考えてみましょう。急速な円高と経済の不振、「リストラ」による会社社会の変化、学校現場では「いじめ」の社会現象化などこのように

揺れ動く社会のなかで、「自分の生き方」・「将来についての夢」・を確立し実現することがとても困難になってきているのではないのでしょうか。

また、皆さんは、高校生活も二年目を迎えようとしています。この高校生活のなかで、「自己」または「自分の将来」について真剣に考えてみたことがあるのでしょうか。「自己」・「自分の未来」から、高校の勉強＝なぜ高校で勉強するのかを考えてみたことがあるのでしょうか。高校での勉強が、本当に自分の将来に関係があるかとうなのか。高校で学ぶ意義はあるのか。こうした問いかけに少しでも答えようと、教科の枠を越えて、創られたのが総合人間科です。総合人間科では、既存の教科では実現困難な、自ら調査・研究する活動を中心においていきます。また、内容的にも総合的＝国語や社会や理科や英語や保健体育・養護などの＝内容を網羅していきます。また、教室から出て調査・研究を行ったり、講師の方を呼んで講演を行なう事も考えています。実際に、沖縄の研究旅行ではフィールドワークもあります。皆さんもどうしたら主体的に取り組めるか考えてみてください。

では、高校2年生では、具体的に何をするかといえは、学年テーマ「人権・国際理解・平和」について自ら調査・研究を行なっていきます。とくに、沖縄をクローズアップしていくなかで、学年テーマ「人権・国際理解・平和」を深めていきたいと思えます。はじめは、教官グループからテーマについてのガイダンスがあります。このガイダンスの後にグループテーマ・個人テーマの検討に入ります。沖縄について、もっと知りたい、もっと学びたいというものをテーマにしてください。沖縄を一つの核にして、自分の「学びたいこと」を学んでください。

II. 学年テーマ

人テーマ「人権・国際理解・平和」

教官グループの担当テーマ

人権・産業	山田・加藤
国際理解・文化	仲田・斎藤
平和・環境	川合・鈴木

III. 持ち物

テキスト ルースリーフ

「視光コースでない沖縄」高文研

ファイルー資料保存用

その他グループ・個人で必要な資料

※テキストと必要な資料はファイルに入れて教室の書棚に保管します。

IV. 今後の日程

(省略)

V. 年間予定

一学期	グループテーマ・個人テーマ検討・調査
夏休み	各自で調査・研究
二学期	グループテーマ・個人テーマの確定 本校研究協議会で討論・発表を中心とした公開授業（ディベートによる沖縄学習） （11月） 沖縄研究旅行（11月）
三学期	研究収録のまとめ 個人研究のまとめ 高校1年生への報告

VI. 評価について

総合人間科の目的としては以下の三点を考えています。

①調査・研究する力、②発表する力、③まとめ・伝達する力を高めること。

この観点から、評価を行なっていきたいと思えます。

3. 一学期の総合人間科実施状況

4月15日	総合人間科オリエンテーション
5月6日	クラス別に教官チームによる講義① A 人権 B 国際理解 C 平和
5月20日	クラス別に教官チームによる講義② A 平和 B 人権 C 国際理解
6月3日	クラス別に教官チームによる講義③ A 国際理解 B 平和 C 人権
6月17日	「名人・学部セミにおける教育調査の経験」 「総合人間科」での調査活動のために 植田先生の話
7月1日	グループテーマ・個人テーマの検討① 各担当教官によるアドバイス
7月15日	グループテーマ・個人テーマの検討② 各担当教官によるアドバイス

4. 学年会と植田先生との懇談について

学年会は、毎週木曜日の2限目に実施。ほぼ欠ける事無く実施してきた。この学年会のなかで、総合人間科についても論議してきた。

また、助言者の教育学部の植田先生の助言と援助を受けてきている。

5月11日 学年団と植田先生との打ち合せ。

この場で、植田先生の講演が決まる。また、「学ぶことから学ぶ」ということフィールドワークの取り組みの考え方の助言を受ける。植田先生から「宗谷の教

育調査」のフィールドワークの実践から、大学生が自ら学ぶ過程で学んでいる様子が紹介された。高校二年生でも、フィールドワークを通じて、沖縄を理解すると同時に、学び方も「学ぶ」ということを大切にしていけることを確認した。

5月20日 植田先生 高校二年の総合人間科の授業を見学

授業後 植田先生と懇談

6月8日 植田先生と学年団で懇談 植田先生の研究室にて

6月17日 大講義室での植田先生の話

7月14日 植田先生と学年団で懇談

5. 今後の課題

(1)一学期の反省

まだ総合人間科の実施の途中であり、全体的な総括反省はまだ行っていないので、現在気のついた点を書いておく。

今回、初めての試みとして、教官によるチーム・ティーチングを行ったことが、総合人間科の成果のひとつであろう。教科の異なった教師が、一つのテーマを違った観点から生徒たちに授業をすることは、教師にとっても大きな刺激になった。さらに、3回の授業を共同で行うことにより、まさに教科にとらわれない総合的な授業ができたと思う。

また、毎回の授業で生徒にレポートを書かせることによって、生徒ひとりひとりが、どんな点が理解できたか、理解できなかったか、おおむねつかむことができた。

教科学部大講義室での植田先生のお話も、生徒たちのフィールドワークの動機づけに大いに役立った。これも成果のひとつだろう。

こうした成果の一方で、総合人間科を実施して、昨年とどう進歩したかということである。昨年までも沖縄の研究旅行を実施してきたわけだが、今回総合人間科を実施してなにか変化したか、まだ未知数であること。同じようなことで、つまづいている。たとえば、班テーマを決める上での問題点など昨年と変わっていない。

まだ、ある意味では、総合人間科の意義が生徒の中で理解されていない。

(2)夏休みの取り組み

夏休みには、個人テーマ・班テーマの内容を深めるための自主学習を設定する。また、地元でもできるミニ・フィールドワークを提案している。

(3)二学期の計画

二学期は、実際の沖縄の研究旅行をフィールドワー

クを実施する。そのための事前学習を実施する。特にフィールドワークに重点をおいて、研究内容・行程などをより豊かにしていく。

本校の研究協議会へ向けて、沖縄学習の中から「基地問題」などについてのディベート授業を実施する準備を行なう。これによりさらに沖縄についての学習を深める予定である。

6. 生徒の感想文より

今回はじめて実施した教育学部での植田先生の講義の感想を紹介しておく。

【A組】藤井美帆

私たちが研究旅行で沖縄に行くにあたって、どのような意味を持っていき、自分たちで確かめ、まとめるか。また、互いに協力しあい、“わかる”ということに達することなど、植田先生の経験により得たことを教えてもらい、とても、私たちのためになったと思います。私たち一人一人が自覚を持って行うことに研究旅行の意義があるのだと思いました。

【B組】堀田秋津

とても興味深いお話で節一時間20分があつという間だった。その中で、フィールドワークの意義というのが分かったような気がする。まだ自分達は第I期の途中であるけれども、これからテーマやコースなどを考えながら、何を学んでこれるかを考えていきたいと思う。

【C組】牧野佳子

幸せにはいろいろな形があると思った。

大学生の人たちが北海道での、活動までの過程や向こうへ行ってからの生活の話を書き添えて、先生は「互いに協力し合い、尊重し合い地域の人々のふれ合いなどによって、入試のために学んできたこととは違う、今まで学べなかった別のことを学ぶことによって幸福になる。」というようなことを、おっしゃっていらっしゃったけれども、その喜びや感動は想像することはできたけれども、実際どんな感じのものは実感できなかった。いままで自分たちが偏差値のための勉強をしてきているからだろうかとも思った。

確かに社会に出て役に立すのは“できる”ことでなくて“わかる”ことだということだと思った。今まで「総合人間科」は何のため？という疑問ばかりだったけれども、これが、人を幸福にするための一要素であるのだということが、今日分かったような気がした。

(文責 山田 孝)